参加者した皆様の声

地元紙に掲載されたり、テレビの取材を受けたりし、多くの方に研究を知ってもらうことができました。

最終選考会で選考委員の方々から頂いたアドバイスがとても勉強になりました。

佐々木嘉和賞の副賞としてアメリカ研修旅行を経験できました。最先端の気象観測技術を知る事が出来ました。

チームワークや検証の進め方、報告書の書き方など良い経験となりました。

コンテストに参加した研究が認められAO入試で志望校に合格しました。

コンテストの様子がYouTubeで生配信されたので会場に来られない両親や友人にも見てもらうことができました。

個人情報の取扱いについて

- 申請書ならびに研究・活動資料の個人情報は、原則として本事業に関する業務遂行上必要な範囲 (広報業務を含む) での 利用に限定いたします。
- 法令等の定める場合を除き、ご本人の同意を事前に得ることなく個人情報を第三者に提供することはいたしません。
- ご提供いただいた個人情報等の情報は当財団代表理事管理のもと事務局が適正に取り扱いを行います。

一般財団法人WNI気象文化創造センターについて

本法人は、気象に関心のある全ての人々及び気象事業を志す起業家に対し、気象に係る実用・実践的研究の奨励及びその研究成果の共有、活用を促進する事業を行うことによって気象文化の向上に寄与することを目的とし、株式会社ウェザーニューズ 創業者石橋博良氏及び同社等の出資により設立された一般財団法人です。

名　　称　一般財団法人 WNI 気象文化創造センター
所 在 地　千葉県千葉市美浜区中瀬 1−3 幕張テクノガーデン
設 立 日　2009年12月1日
理事・監事
代表理事　宮部二朗　元株式会社ウェザーニューズ代表取締役副社長
理　　事　磯野可一　千葉大学 名誉教授
理　　事　湯川智夫　元株式会社ウェザーニューズ常勤監査役
理　　事　堀田健治　日本大学名誉教授
理　　事　島村誠　愛媛大学防災情報研究センター客員教授
理　　事　廣川州伸　コンセプトデザイン研究所所長 ビジネス作家
監　　事　矢嶋学　EY税理士法人 税理士
監　　事　庭山正一郎　あさひ法律事務所 弁護士

助成申請先および各種資料提出ほかのお問合わせ先
一般財団法人WNI気象文化創造センター「気象文化大賞」係
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区 1−3 幕張テクノガーデンB棟19階
e-mail info@wxbunka.com /TEL 043-274-3191 /Twitter @WxBunka

2022 気象文化大賞

第11回 高校・高専 『気象観測機器コンテスト』

募集期間　2022年2月1日 ▸▸ 9月2日

気象を測る・知るツールについて、斬新なアイデアを募集します。

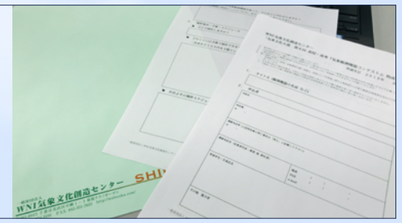
従来の概念にとらわれない自由な発想やステキなアイディアで 気象観測機器を作ってみませんか？
当財団ではこのコンテストの開催を通して、気象観測に興味を 持つ若者たちを応援しています。

コンテストの流れ

1 一次審査

制作する観測機器のアイディアや計画などを記載した申込書を提出。審査を通過すると10万円の制作費用が助成される。

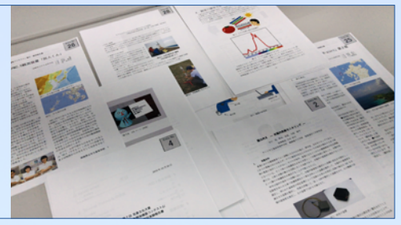
期間A▸5/10　期間B▸6/28　期間C▸9/1



2 二次審査

実機の制作や実証実験 を行い、報告書を提出。最終選考へ進む作品が審査される。

提出期限　11/11　※全期間共通



3 最終選考

千葉県内の会場にてポスターセッション・プレゼンテーションを実施。選考委員 が各賞を決定する。

12月下旬を予定

一般財団法人WNI気象文化創造センター
https://www.wxbunka.com/　@WxBunka
気象文化　検索

一般財団法人WNI気象文化創造センター

気　象　文　化　大　賞

第11回高校・高専『気象観測機器コンテスト』

気象を測る・知るツールについて、斬新なアイデアを募集します

―オンライン説明会―

コンテストの内容や進め方について具体的に知りたい、挑戦したいけど自信がない、などの疑問や不安に個別でお応えします。希望の方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。
日程を調整し、オンライン会議ツールなどを用いて説明します。

メールアドレス：info@wxbunka.com
一般財団法人WNI気象文化創造センター「気象文化大賞」係

一般財団法人 WNI 気象文化創造センターは、空を見て生活している人々が、雨や風、雪などの気象を観測し、いろいろなことを感じて生活する『気象文化の創造』を支援する団体として、さまざまな助成・支援活動をしております。
当財団では、高校生、ならびに高等専門学校（高専）の生徒・学生のみなさんを対象に、空の状態を測るツール（道具）について、従来の概念にとらわれない自由な発想、ステキなアイデアを募集しています。
空は、晴れや曇りの日もあれば、雨、雷雨、台風、粉雪、豪雪など、さまざまな表情を見せ、私たちに驚きを与え、安らぎを与え、感動を与えてくれることもあります。そんな変幻自在な空（雨・風・雪・気温・湿度など）をあなたは、どのようにして測りますか？
空の状態を知りたいときは、学校の観測機材を使うとか、インターネットで公開されている様々な気象データ から読み取るのが一般的です。しかし、センサー技術やネットワークが普及した今日では自分の頭の上にある空の状態を、自分で測り、その情報を他地域にいる仲間と共有することで、革新的な天気予報が生みだすこと ができる可能性が高まってきています。
世の中をアッと驚かせる新鮮な発想、夢のある構想、そして思わず空を見上げて測ってみたくなるような、実 用的な気象観測機器のアイデア、お待ちしています！

≫ コンテスト概要

タイトル：気象文化大賞
「第 11 回 高校・高専『気象観測機器コンテスト』」
主　　催：一般財団法人 WNI 気象文化創造センター
参加対象：高校または高等専門学校 (高専) の生徒・学生
* 1 校あたりの申し込み上限は 3 件までとします。
* 前年からエントリーしているテーマを継続の上、精度を高めて いる作品なども、高評価の一つになります。
募集形式：1 次審査、2 次審査を経て、最終選考をコンテスト形式で実施。
賞 金 等：1 次審査通過者には、制作助成金として 10 万円を支給。実機制作 にチャレンジ。2 次審査通過者は、12 月に千葉県内で開催予定のコンテストに ご招待します (交通・宿泊費として、1 候補につき上限 10 万円まで支給)。コンテストでは最優秀賞のほか、各賞の受賞者には賞 金を授与。このほかに研修旅行などを授与することがありま す。
審査委員：審査委員長は東京大学の中須賀真一教授、第 50 次南極観測隊の 武田康男さん他、数名。

≫ コンテスト詳細

1 次審査　※締切日を 3 回設けております

応募締切：郵送またはメールで受け付けます。
応募期間 A : 2022 年 5 月 9 日必着
応募期間 B : 2022 年 6 月 27 日必着
応募期間 C : 2022 年 9 月 2 日必着
応募方法：当財団のホームページに公開している応募用紙に必要事項を記入し、当財団事務局（連絡先は次ページに記載）に提出してください。
1 次審査：応募された書類をもとに気象観測機器の革新性・実用性を審査します。
審査結果：結果は以下を目処に通知し、助成金を支給します。
1 次審査 A：5 月下旬を目処に 1 次審査結果を通知
1 次審査 B：7 月上旬を目処に 1 次審査結果を通知
1 次審査 C：9 月中旬を目処に 1 次審査結果を通知

2 次審査

制作・実験：2022 年 11 月 11 日までに観測機器を制作して実証実験を済ませ、その結果を記した報 告書を、当財団事務局に提出。
2 次審査：報告書の内容を審査し最終選考へ進むことができる作品を決定します。
審査結果の通知：2022 年 11 月下旬に、最終選考に進める作品の担当者に連絡します。通過者は、最終選考までの間にポスタセッション資料や必要に応じてプレゼン動画を制作します。最終選考会場までの交通費は規定の範囲内で支給します。

コンテスト最終選考、表彰式

日　　時：2022年12月下旬
場　　所：日本で3代目の南極観測船 SHIRASE5002 船内特設会場（千葉県船橋市）を予定。
※状況に応じてオンライン開催とする場合がございます。
内　　容：2 次審査を通過した作品は「ポスターセッション」にて選考委員へのプレゼンテーションを行います。選考委員はこれらをもとに各賞を決定します。
表　　彰：最優秀賞・優秀賞の他、特別賞、参加者選定賞などの受賞作品を決定。